

## 監事監査報告書

平成 27 年度第 2 回監事監査結果につきまして次のとおり報告いたします。

監事 曽場 利夫  
監事 藤山 勝光

監査日時 平成 27 年 9 月 4 日(金曜日) 13 時 30 分～17 時

監査場所 銀山学園 会議室

監査監事 藤山 勝光 曽場 利夫

監査内容 I 事業運営状況について(平成 27 年 4 月～6 月)

- ① 法人本部事業の運営状況
- ② 各施設・事業所の運営状況
- ③ 銀山学園における虐待防止への取組状況
- ④ 陽だまり・ふきのとうの運営状況

II 平成 27 年度の各会計資金収支予算の執行状況について

III 預かり金サービスの管理状況について

IV その他

## 監査結果及び意見

■社会福祉法人後志報恩会定款第23条の定めにより前記の内容について監査を実施しました。法人並びに各施設・事業所の運営及び予算執行、預かり金サービスの管理につきましては適切に行われております。その内容につきまして、意見を含めてご報告いたします。

■法人本部事業の運営においては、5月16日に開催された日本ソーシャルワーカー協会の講演会に法人役職員並びに評議員が参加し、ソーシャルワークの基礎的研修を積むとともに、北海道におけるアイヌ民族に対する人権侵害の歴史や浦河町における精神障害者への支援実践について研修を実施しております。

また、理事長においては全国社会福祉法人経営者協議会の研修や会議に参加し、社会福祉法人制度改革を受けての当法人としての対応について法人本部事務局を中心に検討を開始しているところです。社会福祉法人制度改革については10月に法人独自の説明会が予定されていることから、法人役職員並びに評議員皆様の参加を監事の立場からもお願ひいたします。

■平成27年度の新規採用職員に対する新任者研修が5月28日・29日に開催されております。新任職員についてはその後、順調に業務についているとの報告を受けています。その他、内部及び外部における研修参加も実施されております。利用者一人ひとりの個別支援の充実と実践に向けて更なる研鑽の積み重ねを期待するところです。

■法人内の各施設・事業所においては、利用者の転倒が数多く報告されております。この間、骨折事故も4件発生しています。高齢化による身体機能の低下に起因するものが多いと考えられます。一般的にも高齢者を中心として自らの機能低下を意識し、自らの行動を調整することは困難が伴います。支援現場における細やかな見守りと支援に向けて検討と実践が既に行われておりますが、重大事故に繋がらないように一層の取組をお願いします。

■銀山学園における虐待事案につきましては第2回の評議員会並びに理事会において法人から説明がなされたところであります。その後、法人においては虐待防止に向けてのマニュアルの見直しを進めております。行動障害を伴う支援の具体化に向けての研修を強化し、支援技術を一層高める方向性を強く打ち出す内容が検討されております。

また、銀山学園においては、係長職以上の職員に対するアンケートを実施し、その結果から、今回の事態を生んだ課題と改善に向けての今後の取組について協議、検討が進められてとの報告を受けております。職員参加による支援の見直し作業の継続的な実施と強化が求められるところです。

■陽だまり・ふきのとうにつきまして、その運営状況について詳細な報告を受けました。グループホームに入居する利用者を中心に就労継続支援が実施されておりますが、高齢化に伴う課題を多く抱えております。利用者の実態に即した事業の見直しと転換について継続して検討をお願いします。

■27年度の各会計の予算執行につきましては、第1・四半期においては順調に執行されております。事業収入については各施設・事業所とも四半期の目標値を達成しています。特に、前年度と比較して銀山学園、大江学園において事業収入が伸びております。

今回、第一次補正が提案されますが、平成25年度から2カ年続いた経常収支のマイナスは改善される見込みであります。ただし、人件費比率が65%を超える高止まり状態が継続しており、相対的に人件費率を下げるためにも、各施設・事業所における利用率改善が求められるところです。

■預かり金サービスの管理状況については、適正に管理しております。しかし、預かり金サービス実施事業所の取り扱い、処理件数が膨大に上っています。今後とも適正な取扱いに留意していただきたい。また、成年後見制度の学習会が法人として実施されております。制度の活用に向けての具体化が検討の途上にあります。

■社会福祉法人制度改革が具体化されようとしております。その詳細は明らかにされてはおりませんが、評議員会や理事会の位置づけも大きく変わらざるを得ない状況です。法人としてもその推移を慎重に見極め、後志報恩会として地域社会から寄せられる期待に十全に応えられるよう体制の整備に万全を期していただきたい。